

〈生徒作品〉



まとめ

生徒作品を校内に設置する取り組みを5年間くらいかけて実践してきた。生徒たちは、過去の先輩たちの作品を目にし、これまで本講座が積み上げてきたものを肌で感じ取り、「それよりもいいものをつくらなければ」「下手なものをつくとまずいぞ」と緊張感や使命感を持つようになる。

導入段階でモチベーションを上げさせることが重要であるが、評価よりもプライドに訴えかけること、いい意味で「追い込む」ことを心掛けている。完成した作品が設置されると、生徒も「あの時妥協しなくてよかった」と達成感を感じている。作品を見た別の教員から褒められることもある。また、作品で飾られ、楽しく活気に満ちた事務室前などは来客者や管理職にも好評である。人とのつながりという形で生徒に評価がかえっていく。美術での取り組みが可視化されることによって、美術の存在感や大切さが伝わっていくと感じている。